

## 心なきわざじいぞ

大森 海太

コロナのせいで家にいることが多くなったからか、雨でも降らないかぎり毎日一時間ぐらい散歩をする。このあたりは小石川台地や白山台地、本郷台地などと、その間をかつて流れていた千川（小石川）や茗荷谷が入りこんでいて坂道や階段が多く、道も暮盤の目と反対で不規則に曲がりくねっており、歩くには面白いところである。最近ではマンションもふえてきたが、まだまだ古くからの戸建て住宅がたくさんあって、堀越しの庭木に四季の花や緑が楽しめるし、公園や崖地にもまた様々な草木が茂っている。

最近テレビで富山県だったかのチューリップガーデンの紹介があり、色とりどりのチューリップがこれでもかと植えられて町おこし観光名所になっているとのこと。私はどうもあのような人工的な花には抵抗があって、以前行ったことのある、一面にピンクの芝桜が植えられている公園も好きになれなかった。

ヴェルサイユ宮殿やウィーンのシェンブルン宮殿の庭園などでは、生垣を幾何学的に刈り揃えているところが多い。また日本などでも見かけることがあるが、動物の形に刈り込んだものやら、さらには迷路を作っているところさえある。小賢しいことで、大袈裟に言えば自然に対する冒とくである。

日本の庭木では玉仕立てといって、松などの梢を植木屋を入れてわざわざ丸く刈り込んでいる人があるが、ご苦労なことだ。そんなことをせずに、少し荒れたような庭のほうがむしろ好ましい。

我が散歩道ではなにげない植物たちが、あるがままにアチコチで待ち受けている。近所のスーパーの裏通りには葉がツゲより少し大きくてツヤのある生垣があって、冬の間には枝が伸びて私好みの自然の樹形に近くなってきた。ヨシヨシと思って楽しみをしていたらある日、区役所の職員がやってきて角刈りに刈り込んでしまったではないか。

「心なきわざにこそ！」やむなく刈り取られた枝を二、三本拾ってきて水に差してある。根が生えてきたら鉢におろしてやるつもりである。